

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名 ：一般国道8号 <small>かなざわちくこうつうたいさく しめのまちちく しゃせんか</small> 金沢地区交通対策（示野町地区6車線化）	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 北陸地方整備局
起終点 ：自：石川県金沢市藤江町 至：石川県金沢市示野町	延長 ：1.3km	
事業概要 ：一般国道8号示野町地区6車線化は、金沢都市圏の主要幹線道路である金沢バイパスの一部を形成し、交通渋滞の緩和、地域開発支援などの重要な役割を担っている、約1.3kmの現道拡幅事業である。		
H17年度事業化 H17年度用地着手 H17年度工事着手		
全体事業費 ：約10億円 事業進捗率 ：16% 供用済延長 ：0km		
計画交通量 ：51,600～60,300台/日		
費用対効果分析結果	B/C ： (事業全体) 15.8 (残事業) 17.4	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 15/17億円 (事業費：8/10億円 維持管理費：7/7億円)
総便益 ：(残事業)/(事業全体) 268/268億円 (走行時間短縮便益：262/262億円 走行費用減少便益：6/6億円 交通事故減少便益：1/1億円)		基準年 ：平成18年
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=15.7～19.1（交通量±10%） 事業費変動：B/C=16.5～18.3（事業費±10%） 事業期間変動：B/C=16.9～17.4（事業期間+2年～-1年） 割引率変動：B/C=15.9～18.7（割引率±1%）		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保(現道等の混雑時旅行速度の改善が期待される) ・地球環境の保全(事業整備により自動車からのCO2排出量の削減が期待される) 他9項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 示野町地区6車線化は、慢性的な交通混雑の緩和、地域開発支援等に重要な役割を果たすことが期待されており、金沢市をはじめとする2市1町の首長で構成される石川県直轄国道整備促進部会より事業促進の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 当該事業の周辺では、県庁の移転、区画整理事業や大規模小売店舗など発生集中交通量の多い施設立地が進んでいる。また、示野中町交差点は主要渋滞ポイントになっている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成17年度に用地買収を行い、上り線左折レーンを先行して供用している。今後、公共補償(中日本高速道路株式会社)並びに改良工事を実施する。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成19年度末に上下線共に1車線増設し6車線化供用開始予定である。		
施設の構造や工法の変更等 並行する北陸自動車道の投雪帯を利用することにより建設コストと事業期間の削減を行っている。プレキャスト製品の積極的に活用、建設発生土の有効活用、再生材の利用等によりコスト削減を考慮している。		
対応方針 ：事業継続		
対応方針決定の理由 事業の効果並びに事業の実施状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられ、事業の継続が妥当である。		
事業概要図		



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。